

令和5年度

第2回 木更津市文化財保護審議会

日 時 令和5年12月4日（月）午後2時から

場 所 木更津市郷土博物館金のすず 集会室

会 議 次 第

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 教育長あいさつ
4. 会議内容

審議事項

第1号 木更津市指定文化財の新指定に係る資料概要報告

視 察

木更津市郷土博物館金のすず 常設展・特別展

木更津市指定文化財「旧安西家住宅」

その他

5. 閉 会

木更津市指定文化財の新指定に係る資料概要報告

マミヤク遺跡出土子持勾玉

- 1 資料名 子持勾玉
- 2 員数 1点
- 3 種別 有形文化財（考古資料）
- 4 所在地 木更津市太田二丁目16-2 木更津市郷土博物館金のすず
- 5 所有者 木更津市
- 6 製作年 5世紀
- 7 法量 高さ9.3cm、幅3.5cm、厚3.8cm、重さ269.6g
- 8 石材 滑石
- 9 概要

マミヤク遺跡は、木更津市小浜字マミヤク、現在の港南台一丁目付近に所在する。小浜地区土地整理事業に伴い、昭和60年度に、財団法人君津郡市文化財センターにより発掘調査（調査面積12,000㎡）が行われ、弥生時代後期から古墳時代後期の集落跡の存在が明らかになり、子持勾玉に関連する古墳時代中期では、竪穴住居41軒・祭祀遺構2か所が明らかになっている。

子持勾玉は、下記の1号祭祀遺構の中心部より北東へ約25m、2号祭祀遺構より東へ約60m離れた地点の表土中より単独で出土し、祭祀遺構との関連が想定されている。

表面には調査時に生じた破損が認められるものの、欠失部分の無い良好な遺存状態であり、資料概要報告の作成にあたり、千葉県立博物館 環境教育研究科 高橋直樹氏の石材鑑定により滑石と確認されている。

1号祭祀遺構は、集落の東側に位置し、多数の石製模造品2,270点（鏡1・有孔円板12・勾玉4・剣形6・白玉2,247）、鉄製模造品15、200点以上の土器などからなる多量の遺物の集積で、集落全体を見渡すことのできる場所に位置します。集落全体の祭祀に係る遺構であると考えられている。

2号祭祀遺構は、集落の西側に位置し、石製模造品16点（勾玉1・有孔円板2・白玉13）、35点の土器が出土しています。遺物の特徴が1号遺構と類似することから、同時期の遺構と考えられる。

9 市指定文化財としての適否

本資料は、発掘調査により出土した良好な資料であり、表面には調査時に生じた破損が認められるものの、欠失部分の無い良好な遺存状態である。さらに、集落内の1号・2号祭祀遺構との関連が想定できる、極めて貴重な事例であり、古墳時代中期の祭祀の実態を知るうえで、本資料は重要な意味を持つ。

以上により本資料は、木更津市域はもとより、房総さらに日本列島全域の古墳時代中期の歴史を語る上で欠くことができない資料であり、木更津市指定文化財（有形文化財・考古資料）として指定することが適切であると判断される。

10 今後の取扱いについて

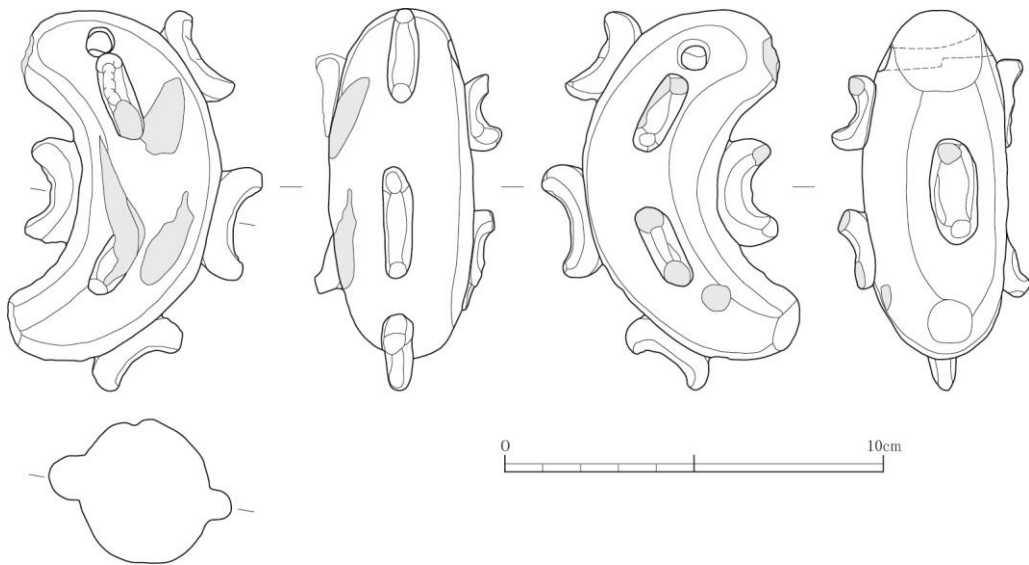
木更津市郷土博物館金のすずにおいて適切に保管・管理し、積極的に活用・公開することが望ましい。なお、活用・公開に当たっては、古墳時代中期の木更津および房総の歴史を物語る資料として活用することに留意されたい。

11 参考資料

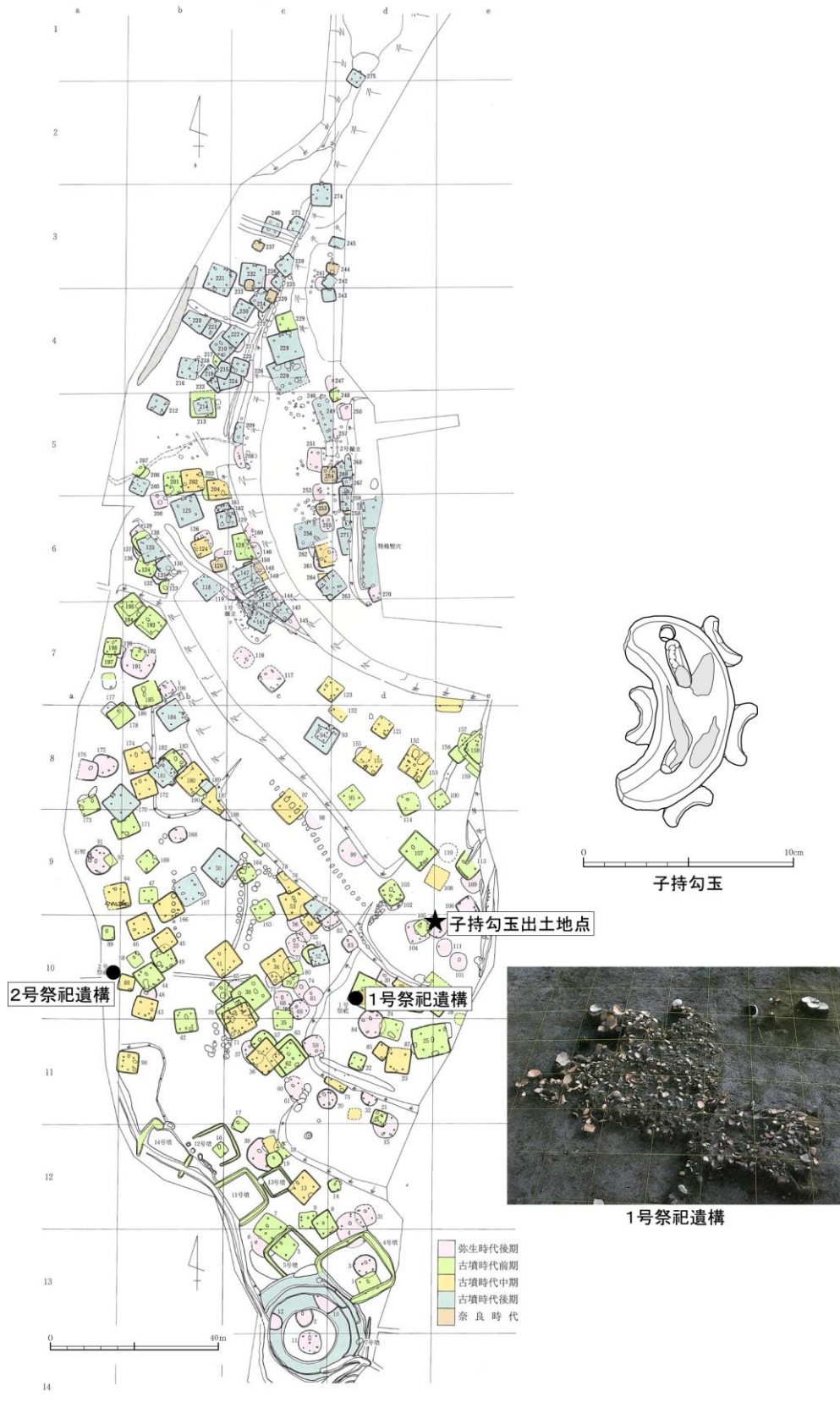
- | | | | |
|-------|------|--|--------------------|
| 小沢 洋 | 1989 | 『小浜遺跡群Ⅱ マミヤク遺跡』 | (財) 君津郡市文化財センター |
| 笹生 衛 | 1993 | 「マミヤク遺跡」『古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物－東日本編 関東地方』 | 東日本埋蔵文化財研究会 |
| 椛山林継編 | 2002 | 『子持勾玉資料集成』 | 國學院大學日本文化研究所 |
| 宮地麻未 | 2021 | 「子持勾玉系統変化」『玉文化研究』第5号 | 日本玉文化学会 |
| 渡邊理伊知 | 2023 | 「子持勾玉の集成と整理」『研究紀要』第37号 | (公財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 |



マミヤク遺跡出土の子持勾玉



子持勾玉実測図



マミヤク遺跡子持勾玉出土地点